


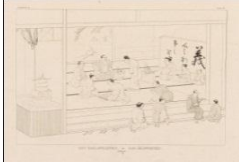







小学社会6年上 日本文教出版

番号	資料名	画像	解説
○信長・秀吉・家康と天下統一			
B1	南蛮人来朝之図		いわゆる南蛮屏風と称されるもので、右隻に上陸したカピタン一行と南蛮寺を描き、左隻に南蛮船の入港と荷揚げの光景を描く。 慶長年間
○江戸幕府による政治			
B2	長崎細見図		材木町、酒屋町、桶屋町などの町名の標記があり、町の成り立ちが分かる 文錦堂／1851(嘉永2)年
B3	清水寺末次船絵馬下絵		長崎の清水寺に奉納された絵馬の下絵。長崎代官 末次平蔵は朱印船貿易家としても活躍した。
B4	長崎港俯瞰細密画		江戸時代の貿易都市長崎の様子をよくあらわしており、出島や新地蔵、唐人屋敷など江戸時代の貿易都市長崎の様子をよくあらわしている。 浦川菊市
B5	長崎港之図		本図は長崎港の鳥瞰図であり、港湾部には出島や新地蔵、唐人屋敷があり、画面中央には停泊中のオランダ船や中国船、画面左上には曳航中のオランダ船が配されている。江戸時代の貿易都市長崎の様子をよくあらわしている。 円山応挙／1792(寛政4)年
B6	出島図		商館長レフィスゾーン(1845～50在職)刊の「日本雑纂」から嘉永5年(1852)頃の、人物や建物等の影からある日の午前中に出島を描いたものである。 川原慶賀／江戸時代後期
B7	唐蘭館絵巻商品計量図		出島の広場内での商品計量の場面。手前の袋は砂糖で、向こうの商品は染色に使われた蘇木(蘇芳)と考えられる。 川原慶賀／文政期頃
B8	唐蘭館絵巻商品入札図		水門の前の日よけの下で、出島出入の日本人商人たちが貿易品の値踏みをしている場面。商品の入札は屋外で行われた。 川原慶賀／文政期頃

B9	唐蘭館絵巻 倉前図		日本の代表的な輸出品である銅の計量と箱詰めなどが描かれている。 川原慶賀／文政期頃
B10	唐蘭館絵巻 荷揚水門図		中国船が入港すると、新地沖に停泊して、積荷を小舟に移し、新地へと運んだ。新地は中国船の荷物を収容するため、1702年に築造された。
B11	唐蘭館絵巻 荷揚水門内部図		役人の監視のもと、荷物が新地に運び込まれている。水門の脇には探り番がつめ、厳重な監視が行われている。
B12	踏絵の図 (シーボルト『日本』)		シーボルト「NIPPON」の挿絵の一つで、長崎でお正月に行われていた踏み絵の様子を詳細に描いている。 シーボルト／1832-1882年
B13	オランダ風説書		風説書 嘉永4年～安政4年 別段風説書@自嘉永四年至安政四年 風説書
○江戸の暮らしと学問			
B14	「鯨魚鑑笑録」		江戸時代の五島や唐津における捕鯨の様子を描いた絵巻物。絵巻には捕獲方から、クジラの種類と部位名、捕鯨道具、解体方法、漁後の宴会の様子などが記録されている。 生島仁左衛門／江戸後期
B15	Nippon 2 狩猟、捕鯨、韓国、アイヌの風俗@和書名「シーボルト日本」		
○町人文化と新しい学問			
B16	解体新書		著・ドイツ人クルムス原著、蘭人ディクテン蘭訳。杉田玄白・中川淳庵・石川玄常・桂川甫周。ほかに前野良沢も翻訳参加。吉雄耕牛序。成・安永三年。三六枚の銅板解剖図は秋田藩士小野田直武が四〇面の木版画になおした。
B17	ドウフ・ハルマ辞書		出島商館長ヘンドリック・ドーフが蘭日辞典を編集し、蘭学興隆の契機を作った。アルファベットAからZまで三三冊。本書は刊行されなかったが、蘭学者の必読書として幕末期の蘭学塾には常備され、研究家は全文を筆写した。本書はオランダ通詞中山作三郎の自筆本である。 ヘンドリック・ドーフ著、中山作三郎写／天保4年(～1883)

B18	星座図・天球図		阿蘭陀通詞・本木家の旧蔵資料のひとつで、1700年頃のオランダで出版された天球図である。中央には北天の星座が1～6等級の星とともに描かれ、上部の左右には、当時オランダで浸透しつつあった太陽中心説に基づく小図が付されている。 A.ファン・ルフテンブルグ／C.ドンケルツ作／1700年頃
B19	沿海地図 (伊能小図)		伊能忠敬が幕府に提出した東日本地図。これは峰源之が江戸で天文修行中に、幕府天文方所蔵本から作成した写しである 伊能忠敬 峰源助写／1804年(文化年間)
B20	シーボルト肖像画		川原慶賀の数少ない油彩画のひとつ。デ・フィレニューフェの肖像画と同様に、若き日のシーボルトの面影をよく伝えている。
B21	医療器具		シーボルトが2回目の来日の際に、娘イネに与えた医療器具。ピンセット・メス・骨鋸など約20点セット。イネは日本最初の西洋産婦人科医となる。 19世紀中頃
B22	薬籠		シーボルトが2回目の来日の際に、娘イネに与えた医療器具。シーボルトがイネの家で患者を診察した際に用い、その後イネに与えたものと推測される。 19世紀中頃
B23	瀉血手術図		西洋人医師が外科手術をしている場面を描いたもの。瀉血手術とは高血圧や脳溢血の治療として静脈より血を抜く手術のこと。しかめ面の病人の顔を描くとき、慶賀はフランス石版画家ポアリーの作品を利用した。 川原慶賀／江戸時代後期
○黒船の来航			
B24	ペリー		ペリーは日本の近代外交史上、最も大きな役割を演じた外国人の一人で、肖像画の数も多い。本図もその代表的なものの一つである。ペリーの姿は庶民によって様々に描かれ、版画として広く流布した。 1854－1860年(安政年間)
B25	北亜墨利加 洪和政治州 上官真像之 図		1854－1860年(安政年間)

B26	肖像写真 (坂本龍馬)		下野写真館(札幌市) *複写を製作か
○新政府による政治			
B27	府県名所図 会群馬県上 野富岡製糸 場		1880年(明治13年)
B28	鉄道馬車往 復京橋煉瓦 造ヨリ竹河 岸図		鉄道場所が東京に初めて出現したのが明治15年(1882)6月、新橋・日本橋間である。 この絵は開通直後の発行で、明治10年代の活気に満ちた街路風景が描かれている。 1882(明治15)年
B29	鉄道馬車往 復京橋煉瓦 造ヨリ竹河 岸図		明治5年(1872)東京と横浜のあいだに、日本ではじめて鉄道が開通した。そのころは新橋駅が起点だった。海の蒸気船のように煙をはきながら陸上を走る汽車をおか蒸気と当時の人は言った。 1873(明治6)年
○大日本帝国憲法と条約改正			
B30	大日本帝国 憲法発布式 場之図		大日本帝国憲法の発布は国民の注目度も高く、式典に関する錦絵は様々な図柄が用意された。本作は、大判3枚からなり、発布を待つ式場内の様子を描いている。売り出したのは招き猫印の長谷川園吉。 1889(明治22)年
B31	憲法発布上 野賑		憲法発布は当時としては画期的なことで、政府官民ともにこれを祝った。お祭り好きの東京では、提灯行列など祝賀行事が行われた。この図はその時の様子を写したものである。 1889(明治22)年
B32	国会会議之 図		第1回帝国議会が開会されたのは明治23年(1890)11月29日のことで、この未曾有の出来事は開化絵の好画題ともなった。 1890(明治23)年
○二つの戦争と人々のくらしの変化			
B33	絵葉書・(鐵 都 八幡名 勝)製鐵所 中央機關		八幡製鐵所は明治の一大国家プロジェクトとして計画され、ドイツの最新鋭の技術を導入し、鋼鉄を生産する日本発の銑鋼一貫製鐵所として操業された。1910年には国内鋼材生産量の90%以上をまかっている。 1928(昭和3)年9月21日